

## V. 特記事項

### 1. 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム

情報通信テクノロジーの進展に伴う社会のデジタル・トランスフォーメーション化や統計データを駆使したエビデンス・ベースド・プラクティスの普及に適応できる知識と実践力を培うために、本学は、令和 4(2022)年度より、「データサイエンス教育プログラム」を新設し、全学的な学生の履修促進を行っている。そして、本学のプログラムは、令和 5(2023)年 8 月に、文部科学省の数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度における「リテラシー・レベル」と「応用基礎レベル」で認定を受けた。

本学のデータサイエンス教育プログラムは、必修 7 科目と選択必修 2 科目の合計 9 科目から構成されており、修了要件として必修 7 科目と選択必修 1 科目の合計 8 科目 22 単位以上の修得が設定されている。この 22 単位は本学経済学部卒業要件の 128 単位に対して約 17%に達していることから、本学がデータサイエンス教育に力を入れていることの根拠となりうる。具体的な科目は、必修 7 科目として「テクノロジーと社会 (4 単位)」「データリテラシー (2 単位)」「データサイエンス (2 単位)」「データ分析基礎演習 (2 単位)」「アルゴリズム論 (2 単位)」「プログラミング実践 (2 単位)」「スタティスティクス (4 単位)」、2 科目中 1 科目の選択必修科目としては「エコノメトリクス (4 単位)」「経営情報論 (4 単位)」が開講されている。また、最初の「テクノロジーと社会」から 6 番目の「プログラミング実践」までは 1 年次開講となっており、同じく 1 年次から全学的に資格取得指導を行っている Microsoft Office Specialist の学修はその補完的な役割を担っている。そして、2 年次開講の「スタティスティクス」あるいは「経営情報論」でデータサイエンスの基礎固めを終えて、より実践的な 3 年次開講の「エコノメトリクス」で学修を完成させるカリキュラム・ツリー構造になっている。

履修学生の学修成果を確保し、卒業後に実際に活用できるような教育サービスにするため、上記のデータサイエンス教育プログラム対象科目はすべて対面で授業を実施しており、オンライン授業やオンデマンド授業は行っていないことも特色といえる。

履修者数については、令和 4(2022)年度 251 名 (在学生の 50%)、令和 5(2023)年度 347 名 (在学生の 71%) と推移しており、プログラム開始時から年度当初の履修オリエンテーションを中心とした学生の履修指導の効果が出ていることがわかる。

また、令和 5(2023)年度末にはプログラム開始以来、初めての修了者が合計 6 名 (2 年生 2 名、3 年生 3 名、4 年生 1 名) 出しており、うち 1 名 (同年度 4 年生) は IT 企業への就職を果たしている。今後、より多くのデータサイエンス教育プログラム修了者を輩出するべく努めていきたい。